

教育担当のつぶやき

私は、センター野洲の教育担当をしています。

新人を含め看護師の皆さんと関わる機会も多いですが、看護学生の皆さんとも関わらせてもらっています。

センター野洲では、看護大学、看護専門学校の実習を受けています。学校によって異なり、1~3日間と実習日数は短いのですが、短く限られた時間の中で、学生さんは多くのことを感じ、学んでおられます。

これまでは言語的なコミュニケーション中心の中で生活されてきたであろう学生さんが、利用者さんとどうコミュニケーションをとったらよいか...利用者さんのニーズを把握するにはどうしたらよいか...を一生懸命考えて、非言語的コミュニケーションで利用者さんの思いを知ろうとされています。

昨年、実習カンファレンスの中でとても心に残る学生さんの言葉がありました。

その学生さんは、利用者さんからもらったメッセージにとっても感動し、涙ながらにこう話されました。

「障害の中にいるその人ではなく、その人の中にある1つとして障害を見なければならぬのが看護だと思う」と...

なんと！ナイチンゲールの言葉と同じではないですか！！

ナイチンゲールも、「**病気の看護ではなく、人間の看護だ**」と述べていて、学生さんが実習で学んだことは、看護そのものだったのではと思い、利用者さんとの関わりを通して、こんなにも大切なことを学んでくれたことをとても嬉しく思いました。

そして、大切なことを学生さんに教えてくださる利用者さんに感謝しています。

一生懸命学ぼうとする学生さんの姿に元気をもらいながら、私も利用者さんから多くのことを学び成長していきたいと思います。



医療福祉センター野洲
看護部教育担当 長村

